

Web 版

社教ニュース

ときたまご



令和7年9月2日（第2号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

地域で活躍する若者たち

～サードプレイス村「音楽×縁日あそび」～

5月17日（土）、たかせ元気会が主催するたかせげんきまつりの中で、高楯中学校と第三中学校の有志の生徒が参加・運営するボランティア団体、「サードプレイス村」が小学生を対象に「音楽×縁日あそび」を開催しました。

メンバーは3月に行った「チルドレンワールド」（R6年度ときたまご第7号で紹介しています。）のノウハウを生かした縁日コーナーと、「たかだて吹奏楽クラブ」とのコラボレーションによる、「だるまさんがころんだ」と「ビンゴ」を企画し、準備を進めました。

当日は、各企画を楽しむ子どもと大人の姿を見て、メンバーは大満足。会場は温かい笑顔に包まれました。

～ビッキの会「ふれあい広場」～

社会教育青少年課が実施する子ども支援事業「ふれあい広場」を企画・運営するのは、約50年前に山形大学で生まれたボランティアサークル「ビッキの会」の大学生です。

6月9日（土）に開催した第1回ふれあい広場では、「みんなとなかよくなるろう！」をテーマに、「猛獣狩りゲーム」や「的あてゲーム」のレクリエーション、「クルクル回るてるてる坊主」の工作を行いました。親しみやすくて頼りになる大学生のお兄さんとお姉さんと一緒に、子どもたちは楽しみながら安心して学ぶことができました。ビッキの会のメンバーは、子どもたちとの距離が近づいていることを喜んでいました。

ビッキの会ではInstagramで活動を紹介していますので、ぜひご覧ください。（下の二次元コードからお入りください。）

※現在、大学生（高校生も可）の新規メンバーを募集しています。



〈ビッキの会 Instagram〉

～子ども支援事業「夏休み子ども学習会」～

例年、社会教育青少年課では「夏休み子ども学習会」を実施しています。今年度は幅広い世代の学習サポートボランティアを募集し、8月7日（木）に実施しました。中央公民館に集まった小学生の学習をサポートするのは1人の中学生と22人の高校生、1人の地域住民です。

小学生は自分のペースで夏休みの宿題や自主学習に取り組みました。子どもたちの手が止まるとすぐにそばに寄って、「どんな学習しているの?」「何か困ったことはない?」と自然に声をかけ、子どもたちの話を聞きました。また、休憩時間には子どもたちと会話や工作、ゲームを楽しみました。

子どもたちにとって中学生や高校生などの若者たちは、自分の話を聞いてくれる、一緒に遊んでくれる、思いに寄り添ってくれる優しいお兄さんやお姉さんです。子どもたちは安心して学習に取り組むことができました。

～サードプレイス村、サードプレイス Jr. で活動する中学生の話～

空いている時間を人のために使いたいと思ってボランティアを始めました。「ありがとう」と言ってもらったときに、やってよかったと思います。自分の行動が誰かの楽しみにつながることにやりがいを感じます。

私は人と話すことが苦手でした。少しでも自分を変えたいと思い、ボランティアに応募しました。取り組んでいるうちに、広い世代の人と接することや自分のできることが増えていくことがとても楽しく、嬉しくなりました。これからも地域貢献や自分の成長のために頑張っていきたいです。

人の輪に入ることが苦手な私に、ボランティア活動を通して何かのきっかけになればと、母に勧められて始めたところ、ボランティアの楽しさや嬉しさを感じる事がたくさんありました。小さい子どもや高齢者の方の笑顔がたくさん見ることができ、「ありがとう」という言葉をもらったときに自然と私の心も笑顔になります。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。

